

形成外科

1. スタッフ（平成28年4月1日現在）

科 長（教 授） 吉村浩太郎
 副 科 長（准 教 授） 宇田 宏一
 外来医長（講 師） 去川 俊二
 病棟医長（病院助教） 加持 秀明
 医 員（病院助教） 須永 中
 医 員（客員教授） 菅原 康志
 医 員（非常勤講師） 木下 幹雄
 シニアレジデント 3名

2. 診療科の特徴

形成外科は、主に身体の造形に基づく問題を解決することによって、対象組織の機能や患者のQOLを改善することを目指す診療科である。当院における特徴は以下である。

- 1) 幼少時から治療を要する唇顎口蓋裂などの頭蓋顎顔面領域の先天異常・形態異常は、患者が成人になっても顔面骨骨切り術などの外科治療を要することが多い。小児形成外科との密な連携で全成長期における総合的な治療が可能である。
- 2) ケロイド・肥厚性瘢痕専門外来を開設し、保存治療から手術治療、テーピング治療、術後放射線治療など、症状に応じた総合的アプローチで治療を行っている。
- 3) 乳癌の増加に伴い、乳房再建症例が増加している。自家遊離組織移植を含む乳房再建関連手術は、2015年は79症例であった。遊離自家組織移植、有茎自家組織移植、脂肪移植、人工乳房による再建など多くの選択肢から、複合治療も含めて、患者の症状や希望に応じた治療を行っている。遊離皮弁など大きな組織移植を行った症例では、採取部の術後機能評価も行っている。
- 4) 舌癌、咽頭癌や喉頭癌など頭頸部癌の切除後の再建（頭頸部再建）の症例も年々増加しており、2015年は65症例であった。頭頸部再建においては患者の術後QOLを重視し、客観的な術後機能評価だけでなく、患者アンケートによるQOL評価も取り入れている。上下顎再建後には補綴専門医との連携でインプラントや義歯の装着までの治療を積極的に行っている。舌再建後には欠損に応じた術後機能の目標を提示して術前からボディイメージの把握に役立てている。また、喉頭摘出後の音声再建も積極的に行っており、リハビリテーションのためには患者同士の情報交換が重要と考え、年に4回程度の患者会も開催している。

・施設認定

日本形成外科学会認定専門医制度指定認定施設

・専門医

日本形成外科学会専門医	吉村浩太郎 宇田 宏一 去川 俊二 須永 中 加持 秀明 菅原 康志
日本皮膚腫瘍外科学会専門医	吉村浩太郎
日本創傷外科学会専門医	吉村浩太郎
日本美容外科学会教育専門医	吉村浩太郎
日本頭蓋顎顔面外科学会専門医	宇田 宏一 菅原 康志

・評議員

日本形成外科学会評議員	吉村浩太郎
日本オンコプラスチックサージャリー学会評議員	吉村浩太郎 宇田 宏一
日本再生医療学会評議員	吉村浩太郎
日本抗加齢医学会評議員	吉村浩太郎
日本創傷外科学会評議員	吉村浩太郎
日本美容外科学会評議員	吉村浩太郎
日本頭蓋顎顔面外科学会評議員	宇田 宏一 菅原 康志

3. 診療実績・クリニカルインディケータ

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	390人
再来患者数	4,107人
紹介率	86.4%

2) 入院患者数

病 名	患者数
乳房欠損・変形	58
顔面先天異常/変形	24
唇顎口蓋裂/変形	6
その他	5
悪性腫瘍	2
難治性潰瘍	2
良性腫瘍	2
他科からの依頼手術	97
合 計	196

3-1) 術式別手術件数

術式	手術件数
顔面骨骨切り術	8
外傷緊急手術	7
唇顎口蓋裂形成術	7
組織単純切除	3
その他	3
頭頸部即時再建 遊離軟組織弁	39
遊離骨皮弁	19
その他	9
頭頸部二次再建 遊離組織弁	7
その他	15
乳房即時再建 遊離皮弁	9
人工物	12
乳房二次再建 遊離皮弁	16
人工物	23
その他	19
合計	196

- 2) ケロイド・瘢痕、眼瞼下垂の受け入れ件数の増加
- 3) 再建手術での多職種連携による術後機能向上
- 4) 褥瘡やフットケアなど難治性潰瘍患者の受け入れ
- 5) 地域の連携病院(新小山市民病院、芳賀赤十字病院、新上三川病院など)との連携促進

3-2) 手術術式別・術後合併症件数

遊離組織移植	90件
術後皮弁壊死	3件

4) 外来手術

病名	手術件数
眼瞼	39
腫瘍単純切除	29
瘢痕・ケロイド	15
頭頸部・顎顔面関連	10
鼻骨骨折	9
顔面神経麻痺	8
創傷・潰瘍	7
乳房再建関連	7
骨内異物除去	5
その他	6
合計	135

5) その他の治療・検査

なし

6) 術後死亡症例

なし

7) カンファランス症例

全手術症例

8) キャンサーボード

なし

随時頭頸癌キャンサーボードに参加

4. 事業計画・来年の目標等

- 1) 新来患者数、外来手術数の増加